

令和8年度 先進都市視察 報告書

大阪府南部市議会議長会

報告市議会	貝塚市		市議会			
報告者	議長	川岸 貞利	副議長	谷口 美保子	事務局長	西阪 和隆
視察日時	令和8年7月28日（火） 13：30～15：00					
視察先	埼玉県川口市					
視察内容	多文化共生の取り組みについて					
概 要	川口市、南部市議会議長会それぞれから挨拶があり、その後、川口市の担当者より多文化共生の取り組みについて説明がありました。まず、はじめに川口市における外国人の総数と人口に占める割合が最近では人口の9.26%に及び、中国人が約半数を占めていること、また、年齢別では20代30代が半数を越えており、在留資格についても、永住者等長期滞在者が多数を占めること、市内地域に偏りがみられることなどのデータが示されました。さらに、こうした外国人総数の増加の要因について、東京都に隣接していること、都内に比べ家賃等が安いこと、すでに多くの同族や親戚が住んでいることなどが要因として挙げられました。こうした理由から川口市では今後も外国人が増加し続けると考えていると説明がありました。川口市の多文化共生への取り組みについては、多文化共生係に中国語、英語のできる国際交流員やタガログ語やトルコ語などができる外国人相談員を配置しており、外国人相談窓口についても、国際交流員や外国人相談員が対応できない言語については、テレビ電話等の多言語通訳業務委託で対応している。また、町会・自治会・学校等からの依頼により職員や多言語ボランティアによる通訳の派遣や文書の翻訳を実施している。さらには外国人等へ向けた情報発信として外国人生活入門ガイドブックや外国人住民むけのポータルサイトを立ち上げている。住民向けのイベントや講習会の実施や日本語学習を行う団体等の安定した運営に対して市としても支援を行っている。令和5年3月には「第2次川口市多文化共生指針 改定版」を策定し、外国人を含む多様性を活かした元気な川口のまちづくりを掲げ、共存ではなく、よりハードルの高い共生を目指している。一部外国人による不法行為や迷惑行員の増加については、入国管理局とともに仮放免者に対する適切な対応を行うことや、外国人のコミュニティのキーパーソンや支援団体等と連携を強化していくことで対応している。					
所 見	川口市の外国人の人口増加は様々な要因が複合した結果ではあるが、その状況に対応するために地域やコミュニティと綿密な連携を図ることが重要な点が改めて理解できました。行政としての市だけでなく、地域や外国人コミュニティのキーパーソンを育成しながらの地道な取り組みに感心させられました。本市ではなかなか難しい活動であると感じました。					

令和8年度 先進都市視察 報告書

大阪府南部市議会議長会

報告市議会	貝塚市		市議会			
報告者	議長	川岸 貞利	副議長	谷口 美保子	事務局長	西阪 和隆
視察日時	令和8年7月29日（水） 10：00～12：00					
視察先	埼玉県戸田市					
視察内容	教育改革の取り組みについて					
概 要	三輪戸田市議会議長の挨拶から始まりました。今回のテーマについては、戸ヶ崎戸田市教育長が直接説明をいただきました。戸ヶ崎教育長は中央教育審議会委員を務められるなど、様々な教育関連の役職を歴任されております。まず、戸田市の教育コンセプトから説明があり、AIの活用や産官学連携に取り組むとしており、教育長自ら率先して人脈づくりを行ったことで、戸田市が多くの産官学の連携をできている点を強調されておられました。GIGAスクールなども含め、様々な取り組みを学校ごとに進めている。取り組みの前提として、教育委員会の前例主義を乗り越える必要があります、教育委員会活性化の10の心構えを策定するなどの取組を行い。産官学連携を活かした学校のデジタル化では、教職員の働き方改革につながることも説明されました。					
所 見	戸田市の産官学連携が様々な形で教育現場に改革をもたらしている状況があり、こうした積極的な取り組みの背景には教育長の熱い理念があることが教育長の言葉の端々にあり、非常に感動しました。また、逆に、これほどの改革を本市で実施することの困難さも感じました。					

大阪府南部市議会議長会先進都市視察報告

貝塚市議会 議長 川岸 貞利
副議長 谷口 美保子
事務局長 西阪 和隆

令和8年7月28日から29日にかけて行われた、大阪府南部市議会議長会先進都市視察に参加しましたので、その状況を次のとおり報告いたします。

○ 多文化共生の取り組みについて（埼玉県：川口市）

令和8年7月28日(火) 13:30～15:00 場所 川口市役所：川口市議会

川口市、南部市議会議長会それぞれから挨拶があり、その後、川口市の担当者より多文化共生の取り組みについて説明がありました。まず、はじめに川口市における外国人の総数と人口に占める割合が最近では人口の9.26%に及び、中国人が約半数を占めていること、また、年齢別では20代30代が半数を越えており、在留資格についても、永住者等長期滞在者が多数を占めること、市内地域に偏りがみられることなどのデータが示されました。さらに、こうした外国人総数の増加の要因について、東京都に隣接していること、都内に比べ家賃等が安いこと、すでに多くの同族や親戚が住んでいることなどが要因として挙げられました。こうした理由から川口市では今後も外国人が増加し続けると考えていると説明がありました。川口市の多文化共生への取り組みについては、多文化共生係に中国語、英語のできる国際交流員やタガログ語やトルコ語などができる外国人相談員を配置しており、外国人相談窓口についても、国際交流員や外国人相談員が対応できない言語については、テレビ電話等の多言語通訳業務委託で対応している。また、町会・自治会・学校等からの依頼により職員や多言語ボランティアによる通訳の派遣や文書の翻訳を実施している。さらには外国人等へ向けた情報発信として、外国人生活入門ガイドブックや外国人住民向けのポータルサイトを立ち上げている。住民向けのイベントや講習会の実施や日本語学習を行う団体等の安定した運営に對して市としても支援を行っている。令和5年3月には「第2次川口市多文化共生指針 改定版」を策定し、外国人を含む多様性を活かした元気な川口のまちづくりを掲げ、共存ではなく、よりハードルの高い共生を目指している。一部外国人による不法行為や迷惑行員の増加については、入国管理局とともに仮放免者に対する適切な対応を行う

ことや、外国人のコミュニティのキーパーソンや支援団体等と連携を強化していくことで対応している。

川口市の外国人の人口増加は様々な要因が複合した結果ではあるが、その状況に対応するために地域やコミュニティと綿密な連携を図ることが重要な点と改めて理解できました。行政としての市だけでなく、地域や外国人コミュニティのキーパーソンを育成しながらの地道な取組に感心させられました。本市ではなかなか難しい活動であると感じました。

○ 教育改革の取組について（埼玉県：戸田市）

令和8年7月29日(水) 10:00～12:00 場所 戸田市役所：戸田市議会

三輪戸田市議会議長の挨拶から始まりました。今回のテーマについては、戸ヶ崎戸田市教育長が直接説明をいただきました。戸ヶ崎教育長は中央教育審議会委員を務められるなど、様々な教育関連の役職を歴任されております。まず、戸田市の教育コンセプトから説明があり、AIの活用や産官学連携に取り組むとしており、教育長自ら率先して人脈づくりを行ったことで、戸田市が多くの産官学の連携をできている点を強調されておられました。GIGAスクールなども含め、様々な取組を学校ごとに進めている。取組の前提として、教育委員会の前例主義を乗り越える必要があり、教育委員会活性化の10の心構えを策定するなどの取組や産官学連携を活かした学校のデジタル化、そのデジタル化は教職員の働き方改革につながるということが説明されました。

戸田市の産官学連携が様々な形で教育現場に改革をもたらしている状況があり、こうした積極的な取組の背景には教育長の熱い理念があることが教育長の言葉の端々にあり、非常に感動しました。また、逆に、これほどの改革を本市で実施することの困難さも感じております。

以上、大阪府南部市議会議長会先進都市視察の報告といたします。